

I 自己評価

1 学校教育目標	1 一人一人の個性を伸ばすとともに豊かな人間性を培う。 2 学力の向上とともに幅広い教養を身に付ける。 3 社会に貢献できる心身ともに健やかな生徒の育成を図る。		
2 評価する領域・分野	◇総合学科		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・「習熟度別授業や少人数授業が生徒の学習の理解につながっている」という項目には83.6%の肯定的な評価があるが、一人一人の能力に応じたきめ細かな指導をより推進していく必要がある。 ・総合的な学習の時間などの内容については85.2%の評価をいただいているため、学習活動としての位置づけを確実にやっていく。 ・講演や体験活動等の授業以外の学習の機会が多く、87.7%の肯定的な評価があり、これを生徒の進路選択等に結びつけていく必要がある。		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇生徒が将来の職業選択を視野に入れた進路に向け、その意識を高め、行動を起こすことができるよう、学習・ガイダンス機能を重視する。 ◇生徒の個性を生かし、生徒が主体的に学び、学ぶことの楽しさや成就感を体験できるよう、生徒の実態に柔軟に対応した授業を展開する。		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・総合学科担当教員、学科主任、系列長、さらには主要5教科の教科主任による「総合学科会議」を定期的開催する。 ・「産業社会と人間」担当者会議の充実を図り、具体的な方策や今後の指針となるべき意見を交換する。		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 教務部と連携し、習熟度授業・少人数授業を設定し、きめ細やかな指導を行う。 (2) 系列の選択（1年次生）あるいは進路選択（3年次生）を見据えたガイダンス機能を充実させるとともに、教員全体で指導をする。	(1) 授業における生徒の学習意欲等の評価や定期考査・検定試験などにおける得点状況。 (2) 講演・体験活動後に行うアンケート・感想等の記入状況。進路実績等。		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
・1年次「産業社会と人間」ではキャリア教育に関する講話(5/12)やライフプランに関する講座(6/21・23)を行うとともに、「職業人インタビュー」を実施し、系列選択あるいは将来の職業選択に対する意識を高めさせる指導ができた。 ・3年次生「総合的な学習の時間」においては、学科全体による販売実習を実施し、生徒・保護者、地域住民に、その取り組みを紹介できた。 ・総合学科全国大会で本校の取組を発表した。	①講話などの取り組みが生徒の系列選択あるいは将来の職業選択に対する意欲を高めることにつながったか。 ②科目担当者とホームルーム担任が連携し、指導にあたることのできたか。 ③総合学科独自の取り組みを行うことができたか。	A (B) C D A (B) C D A (B) C D	
11 成果・課題	○「産業社会と人間」の授業において、外部との連携事業を行うことができ、職業に対する視野の広がりをはじめ、将来の「夢」の実現に向けた「今」の取り組みの大切さを実感させることができ、一定の成果を得た。 ○インターンシップにおいては、実習の手引きを作成し、その意義等について確認できたとともに、マナーや身だしなみなどの事前指導を念入りに行うことで有意義な実習となり、望ましい勤労観や職業観の涵養を図ることができた。 ▲3年次生の「総合的な学習の時間」について、販売実習の目標や計画、役割分担、評価等、明確になっていない部分が多く、多くの課題が残った。		総合評価 A (B) C D
12 来年度に向けての改善方策案（学校評価アンケートを踏まえて） ・総合学科全国大会で明らかになった3つの課題、（1）学科で取り組んでいる内容が生徒のキャリア形成に結びついているかどうかの検証、（2）強いリーダーシップのもとで学科運営を推進していくことのできる組織の検討、（3）系列選択、選択科目の登録、進路指導など、系列（科目）担当者とホームルーム担任との連携を密にしていく方策を検討したい。 ・来年度、どのような形で3年次生の販売実習を実施するか、実施時期や取扱商品、生徒の取組内容、担当教員の関わり等を総合学科会議等で早急に検討し、念入りな計画のもとで実施したい。			

II 学校関係者評価

実施年月日：平成30年2月8日

【意見・要望・評価等】

・販売実習は、2年前にも計画があったが、実現できなかった経緯があるので、今回の実習は良かったと思っている。継続して取り組んで行ってほしい。